



👁️👁️ みどころ

ターゲットの追跡には、防犯カメラとハイテク装備の監視班の活躍が不可欠。狭い香港の雑踏を舞台とした、追う者と追われる者の知能戦は緊張感いっぱい！他方、ベテラン対決に、キリリとした目の新人女優が絡むのが本作のミソ。

1月11日の成人式ではバカ成人の暴走が目立ったが、この新人美人刑事の成長ぶりは？「杜琪峰 (ジョニー・トー) 組」から監督デビューした、游乃海 (ヤウ・ナイホイ) 監督のスタイリッシュな演出にも注目！

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■ 「トー組」の頭脳が新人監督としてデビュー！ ■□■

中国 (本土) に比べると香港は狭く、香港の有名監督や有名俳優の数は少ないから覚えやすい。中でも杜琪峰 (ジョニー・トー) 監督は、『エレクション』(05年)、『シネマルーム17』67頁参照)、『エレクション2』(06年)、『エグザイル/絆 (EXILED放・逐)』(06年)、『僕は君のために蝶になる (蝴蝶飛 / Linger)』(07年)、『シネマルーム21』112頁参照) などでも私も馴染みの監督だが、今回監督としてデビューした游乃海 (ヤウ・ナイホイ) は、ジョニー・トー監督作品の脚本を書いてきた「トー組」の頭脳。そんなヤウ・ナイホイ監督が香港電影金像獎最優秀新人監督賞を受賞した本作は、凶悪犯罪の監視と追跡に焦点をあてた、いかにも香港映画らしいスタイリッシュな構成で迫る秀作だ。

舞台は、高層ビルが林立する香港のイメージとは大きく異なる香港の雑踏。その中を歩き回る男たちの目は鋭いが、彼らは一体どこに向かい、何に気を配っているの？そんな中、

澄んだ瞳の気の強そうなかわいい女の子も一人登場。男たちに混じって彼女は一体ナニを？何のナレーションも、何のセリフもない中、冒頭から観客は否応なく香港の雑踏の中を歩き回る男女の姿に注目させられることになるが、その迫力と集中力はどこから生まれるの？そうかなるほど、これが新人監督とは思えないヤウ・ナイホイ監督の演出力？

■□■本作でもサイモン・ヤムとレオン・カーファイが対決！■□■

『エレクション』では黒社会の会長選挙（エレクション）をめぐる、年長者を敬い、「兄弟」を大切に物静かな実力者ロク役の任達華（サイモン・ヤム）と荒っぽく切れやすい性分で武闘派ながら、金儲けにも長けているディー役の梁家輝（レオン・カーファイ）が対立候補として対決したが、本作ではサイモン・ヤムとレオン・カーファイの接点はほんの一瞬だけ。

なぜなら、後半「影の男」としての存在が明らかになるチャン・チョンサン役のレオン・カーファイは強盗団のリーダーとして、姿をくらしながら強盗団を指揮していくのが仕事だから。これに対して、香港警察刑事情報課・監視班のベテラン



『天使の眼、野獣の街』発売中 価格：(3,800円+税) (C) Sundream Motion Pictures Limited
発売元：NBC ユニバーサル・エンターテイメント 発売日現在の情報です。

捜査員として文明の利器を駆使しながら凶悪犯を監視し、追いつめていくのがウォン・マンチン役のサイモン・ヤム。追う者と追われる者、互いに姿は見えないがその対決の緊張感にはバッチリだ。ところで、本作の原題は『跟蹤』、英題は『EYE IN THE SKY』。それに比べて邦題の「野獣の街」はわかるが、「天使の眼」とは一体ナニ？

■□■キリリとした目の可憐な新人女優に注目！■□■

ヤウ・ナイホイ監督の狙った本作の緊張感に注目すれば、当然原題や英題の方がベター。それに対して邦題の『天使の眼、野獣の街』は、本作でデビューしたキリリとした目の可憐な新人女優の目に注目したもの？

映画冒頭、「獲物」を路面電車の中、雑踏の中、そして喫茶店の中へと必死で追う徐子珊

(ケイト・ツイ) 演ずる新人警官ホーの姿が描かれる。ホーは「獲物」から少し離れた席に座り、雑誌をめくりジュースを飲んでいたが、その前に「獲物」が座り、「なぜ俺の後をつける？君は誰だ？」と迫られたから大変。これがホーの上司となるウォンだったから良かったものの、もし本物のターゲットだったらホーはその場でアウト？もっとも、ベテラン捜査員といえども、やる気まんまんの可愛い女の子には甘いのか、本部に戻ったウォンは本部のフォン夫人(邵美琪/マギー・シュー)にホーを「子豚」というコードネームで呼ぶと紹介し、以降ずっと自分の側で教育したから、ホーの監視班員としての腕前はメキメキと上達。

そんな中、チャン率いる強盗団が宝石店を襲撃。たくさんの監視カメラの画像分析からファットマン(林雪/ラム・シュ)に目星をつけた捜査班はウォン指揮のもとファットマンの追跡を開始したが、そこでホーはどんなお手柄を？

■□■やっぱり防犯カメラは必需品？■□■

大阪の繁華街での防犯カメラの設置は平成20年3月にミナミでスタートし、平成21年の40台から平成22年は170台に増大するらしい。そんな時代状況を受けて、2010年1月12日付産経新聞はひたくりなど全国最多の街頭犯罪を押さえ込むため、繁華街で大規模な防犯カメラ増設計画を進める大阪府警が、カメラの取り扱い規則を内部規定から府公安委員会規程に「格上げ」したことを報じた。「犯罪抑止には防犯カメラが不可欠」との主張と、「防犯カメラは監視社会を助長する」との批判の兼ね合いは難しい。

『LOOK』(07年)は防犯カメラ社会アメリカにおける防犯カメラによるプライバシー侵害問題を鋭く問題提起した作品だったが、本作を観れば香港の凶悪犯追跡には防犯カメラが大活躍していることがよくわかる。やっぱり高度情報化社会の今、凶悪犯追跡のためには防犯カメラは必需品？

■□■ここまで追跡ができれば一人前？■□■

90分とコンパクトにまとめられた本作を貫く緊張感は、現場を指揮するウォンがターゲットの動きを読んであちこちに配置している、あれこれのコードネームを持った捜査員に出す指令のダイナミックさから生まれるもの。つまり、その指令がどこまでターゲットの動きを読み、どこまで適切かによって、追跡が貫徹できるかどうかが決まるわけだ。もっとも、ここまで緻密なチームとしての追跡劇ができるのは、狭い香港なればこそ？

後ろ姿だけではターゲットだと確認できない時、あるいはターゲットが急に進む方向を変えた時、ウォンは誰に対してどんな指令を？ちなみに、ウォンの指令に対して「了解」と短く答えて行動を起こし、すれ違いざまにケータイでしゃべっているフリをしながらシャッターを押してターゲットの顔をカメラにおさめるホーの姿をみていると、ホーはもはや一人前？

■敵の記憶力は？もし追跡がバレたら？■

もっとも、「すべてを記憶しておけ！」とウォンがホーに教えたように、「影の男」として強盗団を指揮しているチャンの注意力、観察力、記憶力も相当なものだ。今俺を追っているのは、あの路面電車の中で隣に座っていたあの可愛いお嬢ちゃん？

チャンが一人で喫茶店に入って行ったから、当然ホーはそれを追って喫茶店に入り、少し離れた席に座ってジュースを飲みながら雑誌をパラパラリ。あれ、これって冒頭で観たシーンにそっくり。そう思っていると、ホーの席に移ってきたチャンが前に座り、「どこかでお会いしましたか？」と尋ねてきたから大変だ。ウォンも後から喫茶店の中に入ったが、チャンは「俺の誤解だったようだ。ここはおごらせてくれ」と言って喫茶店を出て行ったから何とかひと安心。後は俺がチャンの後を追跡しなくては、とウォンはチャンを追ったが、あつと驚く大波乱はその直後に。だって、もしチャンがウォンとホーを含む追跡班の動きをある時点からすべてお見通しだとしたら・・・？



『天使の眼、野獣の街』発売中 価格：(3,800円+税)
(C) Sundream Motion Pictures Limited
発売元：NBC ユニバーサル・エンターテイメント
発売日現在の情報です。

■これなら安心して世代交代も■

三連休の最終1月11日は、日本では成人の日。新成人は127万人と減少の一途をたどっているが、いくつかの成人式では酒気を帯びたバカ成人が壇上に上がったり、騒いだりするという騒動があったらしい。男は羽織袴姿、女は振り袖姿に正装するのもいいが、そんな外見よりも中身を磨かなければ・・・。私は去る1月7日『AU×カルメン×具体』を鑑賞した帰りに、阪急電車の中でケータイで話している若い女性のあまりの傍若無人さについて怒鳴ってしまったが、こんなバカ成人やバカ女に日本の将来を委ねて大丈夫？

ついついそう考え、それなら今のうちにせいぜい楽しまなければ損だという哲学になってしまう。しかし本作を観ていると、本作でチャンから瀕死の重傷を負わされたウォンも、ホーがファットマン追跡のみならず「影の男」の追跡でここまで立派な実績を残してくれば、安心して世代交代も・・・。

2010（平成22）年1月12日記